

内視鏡検査（上部消化管）をお受けになる患者様へ

（説明書 兼 同意書）

【検査の目的】

上部消化管内視鏡検査は、口や鼻から内視鏡をいれて食道、胃・十二指腸の病気の診断をするために行うものです。

【検査のための準備と検査の実際】

- 消泡剤のシロップを飲んでから、約5分間のどを麻酔薬で麻酔します。
- 胃腸の痙攣止めの薬を筋肉注射してから検査を開始します（筋肉注射を使用しない場合もあります）。

検査時間は10～15分程度です。

胃の中に空気を入れますのでお腹が張ることがあります。

検査後、のどや鼻の痛みが残ることがありますが、ほとんどは数日以内に治ります。

病気の有無を観察する以外に、以下の検査、処置を追加することがあります。

生検検査：粘膜の一部を採取して顕微鏡検査（病理組織検査）を行います。その際には、少量の出血が生じます。血液を固まりにくくするお薬を内服されている場合は、出血が止まりにくく行わないこともあります。

色素検査：病変に色をつけた薬を撒いて詳しく調べます。

その他（点墨、クリッピング、管腔内超音波内視鏡検査（IDUS）など）

色素散布の際、場合によっては若干の胸痛・胸焼けを伴うことがあります。

【検査の安全性・起こりうる偶発症】

上部消化管内視鏡検査は安全性の高い検査ですが、0.01%以下の確率で、

- 1) 内視鏡操作による消化管穿孔（穴があく）、出血
- 2) 使用する薬によるアレルギー（ショック、発疹、のどの浮腫など）、他の副作用
- 3) 検査前に持っていた持病の悪化
- 4) 経鼻内視鏡検査の場合、鼻血、鼻の奥の疼痛

などの偶発症が起こる可能性があります。検査医は細心の注意を払って検査を行います。万一、偶発症が生じた場合には必要な処置や手術が必要になることがあります。

上記の検査を受けるにあたり、担当医師からその必要性、危険性および合併症などについて説明を受け、その内容を十分に理解し納得しましたので、国立病院機構旭川医療センターで検査を受けることに同意します。

なお、緊急または、予想外の処置の必要性が生じた場合には、適切な処置が行われることについても同意します。

年 月 日

患者氏名 _____ 様

説明医師 _____